

都市再生整備計画 事後評価シート  
新発田北部地区

平成23年3月

新潟県新発田市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	新発田市		地区名	新発田北部地区			面積	208ha	
交付期間	H18～H22		事後評価実施時期	H22		交付対象事業費	2,277百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路事業〔西新発田五十公野線(緑町工区)〕、道路事業〔島潟荒町線〕、道路事業〔中曽根町東線〕、道路事業〔中曽根町西線〕、道路事業〔西園町小舟町線〕								
			提案事業	まちづくり活動推進事業〔町内会ハザードマップ作成事業〕								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	-	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			提案事業	-	-		-					
	新たに追加した事業		基幹事業	-	-		-					
			提案事業	事業活用調査事業〔事業効果分析調査〕	事後評価業務のための必要データの一部を外部委託等により収集・分析し、客観的な事業効果検証を行うため		なし					
交付期間の変更		当初	H18～H22		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	街路整備による混雑度の低減	日交通量 / 交通容量	1.5	H17	1.0	H22		1.0	あり	交通容量の高い中環状道路の整備により混雑度が低減した。また中環状道路とその他道路とのアクセスの強化により中環状道路以外の道路利用者の中環状道路利用へのシフトは想定されるが、許容範囲である。	平成23年5月
	指標2	新県立新発田病院までの時間	分	10	H17	8	H22		8	あり	走行距離の短縮による走行時間短縮を、主な効果発現原因とした。そのほか交通容量の高い中環状道路の整備による混雑度低減、交通量の分散により、新県立新発田病院へのアクセスに際しての道路利用選択肢が増えた。	平成23年5月
指標3	防災に対する意識向上	人	0	H17	100	H22		100	あり	ハザードマップ作成のための住民参加ワークショップを開催し、参加者の防災意識に対する啓発が図られた。対象町内会へのマップ配布のほか、この活動をPRすることにより、ワークショップにかかわらなかった地域住民への啓発が行われた。	平成23年3月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
その他の数値指標1	中環状道路を通行する交通量	台/日	4,800	H17	/			6,600	/	/	交通容量の高い中環状道路の整備や外環状道路と中環状道路のアクセスの強化により、外環状道路利用者の中環状道路利用へのシフトが行われた。	平成23年5月
4)定性的な効果発現状況	(なし)											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし				
	住民参加プロセス	防災ハザードマップの作成を住民参加によるワークショップにより実施した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				定期的なマップ更新作業を促す				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし				

## 様式2-2 地区の概要

### 新発田北部地区(新潟県新発田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
地区内交通の円滑化を目的とした都市環境の充実と広域的な新病院へのアクセス強化  県北地域における医療福祉の中心となる新県立新発田病院への交通ネットワークを整え、アクセス強化と利便性の向上を進める。だれもが安心安全に暮らせる都市環境を充実させるため、都市計画道路網の整備を進め、安全な歩行空間や地区内交通の円滑化を図る。災害に強いまちづくりを推進するため、避難及び救助のための通路整備と、地区住民の防災意識の向上を図る。	街路整備による混雑度の低減	単位:日交通量/交通容量 1.5 H17	1.0 H2 2	1.0 H2 2
	新県立新発田病院までの時間	単位:分 10 H17	8 H2 2	8 H2 2
	防災に対する意識向上	単位:人 0 H17	100 H2 2	100 H2 2
	中環状道路を通行する交通量	単位:台/日 4,800 H17	-	-

まちの課題の変化

- ・中環状道路の整備は進展し、新県立新発田病院への主要アクセス道の選択肢が増え、到達時間の短縮等利便性が向上した。
- ・中環状道路の整備が進展したことから、道路利用者の選択肢が増え交通量は分散し、救助・搬送等の機能が向上した。
- ・延焼拡大防止のための道路幅員は確保され、かつ街路樹等の植栽により効果を増した。
- ・道路事業の各路線において歩道の整備が行われ歩行者自転車の空間が確保されたことにより安全性が高まった。あわせて市道緑町北線を通行する車両が、道路事業〔西新発田五十公野線(緑町工区)〕にシフトして、市道緑町北線の交通量が減少したことから、歩行者自転車の空間が確保され安全性が高まった。
- ・道路事業〔西新発田五十公野線(緑町工区)〕や関連事業〔西新発田五十公野線(本町工区)〕竣工に伴い、市街地から国道7号へのアクセス機能は向上した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・中環状道路〔都市計画道路西新発田五十公野線〕の85%は完成したので、さらなる効果促進のため引き続き当該街路の残工区の整備と接続する街路の整備を実施する。
- ・既存各交差点における右折環境の悪化が見受けられることから、目的地到達のための所要時間の短縮効果が減じられていると考える。交差点右折時における信号待ち時間を短縮する。
- ・緑町1・3丁目町内会区域内を横断する都市計画道路が新設となった。今まで広い幅員の道路を横断する環境になかった住民個々々々に対して“交通事故を未然に防ぐ意識”を啓発することが必要である。